

関東農政局長賞受賞

受賞者 忠次プロジェクト推進協議会

(埼玉県北足立郡伊奈町)

【平成の町普請！伊奈備前守忠次公によるまちづくり】

1 取組の動機と背景

忠次プロジェクト推進協議会が活動する伊奈町は、昭和 50 年頃には、なし、ぶどうなどの果樹に加え、水稻栽培の盛んな農業の町であったが、昭和 58 年に埼玉新都市交通伊奈線が町内を縦断するように開通し、交通の利便性が飛躍的に改善した事を契機に宅地化や企業の立地、農地の遊休化が進み農村の面影が徐々に薄れてきた。

都市化の進展により人口が急増する中で、町名の由来となり、農業の基礎を築いた伊奈備前守忠次の功績を後世に語り継ぐ必要性が議論されるようになり、これを契機として平成 23 年には、有志による「伊奈備前守忠次友の会」を発足し活動を始めた。この活動により忠次公の功績を後世に残す文化的な活動が一層盛んになり、「この活動を観光、農業、産業にも広げ活性化につなげたい」との地元住民からの要望も高まり、平成 28 年に官民協働による伊奈氏屋敷跡周辺を起点とする新たなまちづくりを目的とした「忠次プロジェクト推進協議会」が設立され、会員及び地域住民参加による拠点整備や交流イベントの開催、伝統野菜の栽培・活用等の活動を行っている。

2 主なむらづくりの内容

- 農家を含む多くの町民の参加のもと、町づくりの中心となる伊奈氏屋敷跡周辺で散策路整備イベントを実施。生活環境整備を行うとともに、観光スポットとしても活用。
- 忠次公の歴史認識を深めるため「忠次公レキシまつり」を開催し、地元野菜の直売や特産品の販売、さつまいもの堀取り体験を行うなど地元農家と地域住民及び町外参加者が交流。
- 連携する地元農業団体は、伊奈氏ゆかりの伝統野菜「のらぼう菜」を復活させるとともに、忠次公が新田開発したが遊休化していた水田を再生し、水稻を栽培することで地域の農業振興・活性化に貢献。
- 協議会構成員である女性農業グループは、「のらぼう菜」を利用した 6 次産業化商品(おやき、お菓子)を開発するとともに、伊奈町産米を利用した日本酒・せんべいなどを農工商連携によって商品化。
- 同女性農業者グループは忠次プロジェクト推進協議会の企画・運営による伊奈町産米を使用した「“米”レシピコンテスト」に参加したり、イベントでお弁当を販売するなど、女性達が協議会活動に積極的に参画。



伊奈氏屋敷跡周辺の散策路整備



交流イベント「さつまいも堀り体験」



伊奈町産米の 6 次化商品（日本酒）



「米」レシピコンテストへの参加